Letters Arpak
レターズアルパック
VOL.225 ISSN 2432-5295

# 福

CONTENTS

◆【福】…01～04
◆今、こんな仕事しています…05～08
◆事務所だより…09
◆近況&イベントのお知らせ…09～10
◆まちかど…裏表紙
・にぎわいと歴史・文化により紡がれるみち

あけましておめでとうございます。
2020年は経験したことのない禍に世界中の人々が直面し、それは今も続いています。また、私たちの会社にとっても特別な年でした。その意味で新しい年に「福」を願う気持ちは特に強いです。
何を「福」と感じるかは人によって違います。ある人にとって何でもないことが、別の人にとってこの上もない「福」であることもあるでしょう。「福」には人称があるといえます。
年頭にあたり、それぞれが考える一人称の「福」について寄稿してもらいました。小文ですが、個性あふれるいい文章が集まりました。

レターズアルパック編集委員会

## 福岡というまち
### 地域再生デザイングループ／浅田麻記子

本来の「福」というテーマとは違う！と言われそうですが、「福」と聞いた瞬間、私の頭に出てきたのは「福岡」でした。私は大学の4年間を福岡で過ごし、近年もお仕事で行かせていただき、よかネットの皆様や関係事業者の方々と楽しい夜を過ごさせてもらっています。気候よし、食べ物安く美味しい、博多美人いっぱい、温泉も身近、魅力的な名所満載、といった福岡ですので、コロナ禍ではありますが、ぜひ皆様にも訪れていただければと思います。また、福岡を拠点にすれば、九州中どこでも行きやすいです。まだまだお仕事のネタも見つかりそうなので、これからも私は九州に通いたいと思います。ちなみに、昨年一年全く「福」を感じることはなく、むしろ散々でした。今年こそは「福」が訪れることを祈りたいと思います。

## 福をもたらすライフログ
### 都市・地域プランニンググループ／稲垣和哉

普段から移動軌跡、作業時間、睡眠スコアなどいろいろなログを残しています。いわゆるライフログというものですが、沼要素が強く、やりだすときりがありません。そんな沼から抜け出せなくなっている私は、昨年から専用のアイウェアで集中力のログも残し始めました。何のためにという声が聞こえてきそうですが、ライフログ界隈には「全部とっておく」という考え方があります。シグナルとノイズは不可分で、シグナルがノイズに変化したり、その逆もあるからこそ、残せるものは全部とっておかないとダメというわけです。年末になると、1年分のデータの蓄積が可視化され、幸福感が高まってきます。福が逃げないように、データのバックアップは徹底しようと思います。

## 縁からつながる幸福
### サスティナビリティマネジメントグループ／伊藤栄俊

“福”といわれると、一番初めに“幸福”が思い浮かびました。今の私にとっての“幸福”って何だろうか、と考えてしまうと話が大きくなりすぎてしまいますので、最近何に“幸福”を感じたか考えてみました。昨年度、連日のごみ組成調査の間の休みの日にサイクリング部の後輩（後輩といっても干支も一回り以上年下（笑）の学生たちです。）と一緒に走る機会がありました。卒業してからはあまり部とは関わりがなく、面識のない後輩ばかりでしたが、時にはおしゃべりをしながら、時には競いながら楽しませてもらえました。一緒に走った時間も一緒に走ってくれる後輩たちがいることは“幸福”なことだと感じました。大学時代所属していた部の縁で今回の“幸福”を得ることができました。業務でもプライベートでも縁を大切にしていきたいと思います。

## 改めて実感する幸福
### 地域再生デザイングループ／太田雅己

昨年は人と会うことの幸福を感じる1年になりました。
毎年、年末年始は地元に帰省し、高校時代からの友人達と食事や旅行をして過ごすことが楽しみなのですが、今年はコロナということもあり、遠方に散った友人達が集まることは叶いませんでした。情報機器が発展したことで離れていても繋がりを持つことができ、オンライン飲み会なども楽しいのですが、やっぱり対面で集まったときの会話や食事を通したふれあいや共感は、とても幸福な時間だったなと実感しました。当たり前にできていたことの価値を見つけることができたのだと思います。また集まれる日が来る時を楽しみにしながら、日常の小さな幸福を大事にする一年にしたいと思います。

## 歌会にて
### 地域産業イノベーショングループ／遠藤真森

先日、大学時代の先輩主催の歌会に誘われ、初めて参加しました。オンライン開催です。歌会を簡単に説明すると、まず参加者が作った短歌を誰の歌か分からないようにして共有し、好みの歌に票を入れ、投票結果を順番に発表しながら歌の感想を話し合った後、読み手を発表するものです。
普段、短歌を作ることなど無く、興味本位で誘いを受けましたが、想像を超える幸せを得ることができました。自分にない感性に触れたり、自分の感性を表し、感想をもらったりするのは、貴重で幸せなことと思います。また、会に向けて歌を作ろうとしていると、身の回りの一つ一つの出来事に敏感になり、普段の生活や過去・未来にいつも以上に思いを巡らせていることに気づき、幸せな気分になりました。身近な人の思わぬ素敵な感性に出会えるかもしれないので、まずは近しい人とやってみるのがおすすめです。

## 前向きに、楽しく、明るい一年に
都市・地域プランニンググループ／絹原一寛

あけましておめでとうございます。昨年をふり返ると、「福」より「災」であったなぁ・・・と暗い気持ちになる方が多いかもしれません。でもことわざにもありますが、どんなに辛い中でも転じて「福」を見つけ出そうとするのは、人間に備わった良い能力だと思います。
私の「福」は、子供ら家族と過ごす時間。ステイホームで、週末は料理をふるまうようになりました。皆がストレートに喜んでくれるので、ますますはまるようになり、妻が料理本をプレゼントしてくれました（笑）。
まだまだコロナ禍は続きそうですが、前向きに、良いこと、楽しいことに目を向けていけば、「福」がきっとやってくる。そんな一年にできたらと思います。

## 日常の小さな「福」に光を当てる
都市・地域プランニンググループ／岡本壮平

あけましておめでとうございます。
コロナは厄介で迷惑極まりないものですが、コロナ禍にあって、医療従事者やエッセンシャルワーカーの、一見地味だけど社会活動に必要不可欠な仕事のありがたさに改めて（初めて）気づかされました。もちろん仕事に貴賤はありませんが、いかに多くの方々が（寡黙に）社会を支え合っているかを再認識できたことは、個人的には、コロナ禍にあって小さな「福」と言えるものでした。では、自分は、都市計画は、何ができるのか？
気負うことなく日常の中に小さな福を見つける視座を持つ１年にしたいと思います。今年もよろしくお願いいたします。

## 福は内、福は内
建築プランニング・デザイングループ／杉本健太朗

名古屋市にある大須観音は、日本三大観音の一つであり、門前町の商店街は多様な賑わいを見せています。２月３日の節分会に豆まきを行いますが、かけ声は「福は内、福は内」であり、「鬼は外」は禁句です。理由は、鬼面が寺宝となって伝わっているからです。言い伝えでは、神人が鬼面を持って来て「この面は観世音垂跡の夜叉面ゆえに、加持を加え、諸人の禍をのぞき、福をさずけよ」と言ったそうです。一般に鬼は悪者のイメージですが、逆に禍いを取り除く、福をもたらす存在と捉えていることに、このエリアの地域性が表れているように思いました。商店街の雰囲気は、老舗、サブカルチャー、様々な海外グルメの店が並び、多様な価値観を受け入れる寛容さを感じます。鬼が福となる考え方ができるように、今の社会ももっと寛容さ、受け入れることの間口を広くしたらよいのではないかと常々考えます。

## 年始の家族行事も新様式に。
サスティナビリティマネジメントグループ／駒和磨

毎年の家族行事の中で、年始に幼なじみも誘い家族で、近所の神社に初詣に行きます。
ただ、今年はコロナということもあり、家族行事である初詣も例年通り行っていいものか。と悩んでおります。世間では分散参拝やオンライン参拝が推奨されているところ、初詣に代わる『幸先詣』というものがあると最近初めて知りました。お正月ではなく、年内のうちに参拝して「来年もいい年でありますように」と先の幸せを願うものということで「幸先詣」といっているそうです。
毎年の行事を諦めきれない気もありましたが、感染対策を行いながら 2021 年が良い年で福が訪れるように、新様式 ( 家族行事としては ) で参拝を行いたいと思います。

## それぞれの生活・それぞれの幸福
地域再生デザイングループ／竹内和巳

昨年は、コロナ禍の最中に都心部に引っ越して、改めて「ああ、都会に住むっていいなあ」としみじみと感じていました。社会派の皆さんには、「これからは都市への一極集中が変わる」と意気込んでいる方もいらっしゃいますが、それぞれが生活で大事にしたいことを認識し、それぞれの幸福を獲得することが大切なんだろうなあ、と考えています。そんな都会に引っ越した私は、夏に高知にふらりと行って、穏やかで力強い自然を目の前にして、自分の小さな世界の中でバタバタするのやめよ～と肩の力を抜いていました。今年も色んな幸福を探して楽しみます。

## ご来福
九州事務所／仙波大海

「福」という文字を見ると、私の出身地「福岡」を連想します。私の居住地は、福岡県福岡市であり、「福」の字が２文字も入っていることから、改めて縁起の良い住所だなと思いました。話は少し変わりますが、福岡に他県の人が訪れることをご来福と呼びます。緊急事態宣言以前は、国内外から多くの観光客の方が訪れ、新しいホテルが次々とオープンするなど活気がありましたが、現在は以前よりも客足が落ち着いています。2021 年は、多くの方にご来福していただければと思っています。そのためにも、一人一人が感染症対策を徹底して、感染症に強いまちづくりを推進していくことが重要であると日々感じています。皆さんに沢山の福が訪れますように。

## 禍を転じて福と為す
### 建築プランニング・デザイングループ／原田稔

昨年は新型コロナのおかげで色々なことを考えさせられる１年でした。特に今までの働き方と人生の豊かさについて。テレワークにより、在宅時間が長くなったこともあり、家族と過ごす時間も増え、時間の流れも今までより少し緩やかで、日常が少し豊かになったようにも感じられました。幸福は精神的な豊かさによってもたらされるもの。普段ならこのような少し豊かな日常の積み重ねが幸福につながるのでしょう。まだしばらくは不自由な日々が続くこととなるでしょうが、こんな時期であるからこそ、少し豊かな日常の実践を少しずつ積み重ねていきたいと思います。

## 感染するなら
### 総務部／仲野めぐみ

「笑う門には福来たる」明るく朗らかにいれば幸せがやってくるというような意味だが、笑いがもたらす幸せ効果は世界共通なのだろう。ずいぶん昔になるが、インドへ行った時のツアーで、ラフィンクラブというものに参加した。笑いのエクササイズを通して世界が平和になるという趣旨だったと思う。変な帽子をかぶり、インド人の真似をして笑う。色んなパターンの笑い方がある。エクササイズなので参加者も半強制的に笑わないといけないのだが、本気の笑いにつられて笑う。言葉は通じなくても、笑いあった後は心が通じたような気持ちになる。笑いは国境も超える。福の反対が禍。コロナではなく笑いのウイルスを感染させて皆が幸せになりますように。

## 福来郎
### 総務部／藤井明美

福と聞けばフクロウを連想します。
趣味がフクロウグッズの収集なのです。Bag・食器・クッション等々、そして置物は特注で作っていただきました。愛くるしい笑顔をみると心が和み嫌な事も忘れ癒されます。「福が来る」と信じ毎朝置物に手を合わしてますが残念ながら実感がありません。フクロウには他に様々な当て字があり、又、商売繁盛・金運ＵＰとも言われてます。古くから日本だけでなく海外でも縁起物として親しまれており皆様も一つくらい持っておられるのではないでしょうか？今後は幸福に年をとるという意味合いの「福老」を信じ過ごしていきたいものです。皆様にも多くの「福」が訪れますよう願っております。

## 福祉は幸福よりもかなりおっきい感じです。
### 公共マネジメントグループ／廣部出

福祉はどちらの漢字も「幸せ」の意味。憲法には「公共の福祉」に反しない限り、一人ひとりの幸福追求権を最大尊重するなどとあります。つまり福祉は社会が求める幸せなので、個人の幸福の最小公倍数的なものと捉えるわけです。そう、最大公約数的ではダメです。社会保障やなんやと「いっしょくた」に考えてセーフティネット感が強調されがちですが、そもそも「みんなハッピーならそれがいい」っていう大目標です。さて、英語の「welfare」は、「well（満足に）」＋「fare（やっていく）」の造語だそうです。誰もがその人らしくちゃんと満足して生活していけることが社会として求める幸福であるなら、今年はその道程の厳しさがちょっとはマシになれば……。

## 瓶コーラは一過的な幸福
### 建築プランニング・デザイングループ／増見康平

福という文字を見て、「幸福な時間は、美味しいものを食べている時、素晴らしい景色と巡り会えた時、チームで何かを勝ち取った時、金曜日の夜…やっぱり１番は、瓶コーラを飲んでいる時かなぁ」などと高校時代の友人と話し合ったことを思い出しました。最終的には、ロバート・ウォールディンガー氏の幸福と健康についての研究に辿り着き、『持続的な幸福と健康を築くのは良好な人間関係、特に身近な人との人間関係である』という研究結果に一同納得しました。コロナ禍においてコミュニケーションが難しい最中ですが、自分の持てる限りの時間とエネルギーを良好な人間関係の維持・構築に充てたいと、（瓶コーラを片手に）改めて思います。

## 「福」ベトナムの固有名詞に人気のある一文字
### 地域産業イノベーショングループ／ホアンゴックチャン

ベトナムは昔から中国文明に強い影響を受けており、いまだに言葉に多くの漢越語が存在しています。また、身のまわりの小さなことから幸運を呼べたり、人の名前に神様が宿ったりと信じており、風水が大好きな国民性だからか、子どもへの名づけにも「福」がよく使われます。この点について、日本人の皆様にご共感頂けますでしょうか。ベトナム北部や南部のそれぞれの方言によって、「フック」や「フォック」等、発音が少し異なりますが、一つの小学校クラスに２～３人はいるくらいのではないかと思われるくらいです。一例として、ベトナムの Nguyen( グエン ) Xuan( スアン ) Phuc( フック ) 首相のお名前は漢字に直すと「阮春福」となり、ベトナム 64 省の中でも Vinh( ヴィン ) Phuc( フック ) ＝永福省があります。

## 福を求めて
都市・地域プランニンググループ／水谷省三

２年ほど前から２つの神社の宮前広場など、境内地の修景整備に関わってきました。１つ目の神社は京都市北区にある上賀茂神社、２つ目は和歌山市和歌浦の玉津島神社です。それぞれの神社の整備の経過や内容は違えども、ともに鳥居を新設するという共通することがあり、既存にある鳥居から外側に鳥居が設けられるものです。

年始早々は、まだ少し工事が残っていると思いますが、境内地の新たな顔となる場の風情が表れてきていると思います。お近くに立ち寄りの際は、福を求めて足を延ばしてみるのはいかがでしょうか。

## 至福のひととき
都市・地域プランニンググループ／松下藍子

今年は家で過ごしたり、外出も近場が多くなりました。そんななか、今まで以上に楽しみは食になり、興味が尽きません。車でカフェ巡りをしたり、地域の名物を買って家で食べたりするのが日常の至福のひとときです。昨年の秋にはワーケーションの体験にと尾道へ行ってきました。尾道ラーメン、お好み焼き…と、そこでも楽しみの一つが食。朝早く起きて尾道の坂道を歩き、瀬戸内海から昇る日の出を見て、仕事をして、夜には地元の食を楽しむ。いつもと違う小さなことを、幸せだなあと思った日でした。

## 初めて買いました
地域産業イノベーショングループ／山部健介

年末は、温泉地で疲れを癒したいなあと思っていましたが、今年はコロナの影響もあり自粛することにしました。釣りに行くにもなかなかハードな時期であり、遠方まで行くのも時節柄よくないなあ、などと思案しているうちに、特段することがないことに気付きました。

そんな時、たまたま目に入ったのが、年末ジャンボ宝くじ。これまで自分で買ったことはありませんでしたが、もしかしたら当たるかも、という想いで、買ってみました。高額当選者が出る売り場とか、名物販売員とか、色々とあるみたいですが、結局近所の売り場で買いました。とても愛想の良いおばちゃんだったので、ひょっとするとですが、まずは買ったことを忘れないようにしたいと思います（笑）。

## たらふく食べて満腹な自分とサヨナラ
公共マネジメントグループ／水野巧基

昨年は、世界中がコロナ禍と戦った１年となりました。今年は禍（わざわい）に負けずに、些細でも福を見つけ幸福な年にしたいものです。私が幸せを感じる主な瞬間は食べている時です。そんな私が「福」という言葉を聞いて頭に思い浮かべたのは、日々成長を遂げる自分の「腹」とタイ・タコ・カニ等の「福」を招く食材でした。

そんな私も今年が 20 代最後の年なのです。お医者さんや周囲には、30 代になると痩せづらくなり、病気にもなると言われているので、今年は食べる以外の幸せな時間を見つける１年としたいです。まずは、年末の大掃除で昔のアルバムを探し、駅伝ランナーだった若かりし頃の水野少年を確認し、意識改善から始めることにします。

## 福のしま
地域再生デザイングループ／山本貴子

“福”と聞くと、ほっこり温かい感じがしますが、私にとっては、“福島県”が思い浮かび、気持ちを引き締めてくれることばのひとつになっています。私は以前、東日本大震災の復興支援業務に携わり、福島県の沿岸部を訪れたことがあります。太陽の光がきらきらとしみ込み穏やかに波打つ海と、その前に広がる音も色も消えてしまったかのような街の風景は、いまでも鮮明に思い出されます。そして、その時に感じた無力さが、都市づくりに関わる者としての気持ちを強く引き締めてくれます。

2021 年は東日本大震災から 10 年。今年はまた福島県に行こう、そしてそこに、少しでもほっこり温かい風景を見つけられるといいなと願っています。

## 福→ふく→服
地域再生デザイングループ／山道未貴

この季節になると福袋の販売やセールが始まります。今のご時世を考えると福袋やセールで人が殺到し商品を奪い合う、ある意味お正月の風物詩といった光景もなくなるのかもしれませんね。私にとって洋服は、テンションが上がるアイテムの一つです。洋服を購入する時に気をつけていることは、安いからといってすぐ買わない、衝動買いをしない、５年、10 年先も着られるかの３つです。セールとなると、あれもこれもと手が伸びてしまいますが、本当に好きなものを長く着続けるためにもじっくりと考えて購入します。福を辞書で調べると「しあわせ」という意味もあります。私にとっては、お気に入りの洋服を身に着けることで福につながっています。

今、こんな仕事をしています

# 宝塚市で郊外住宅都市の未来像を考えています
## （都市マスと立地適正化計画の策定支援）

岡本壮平：
都市・地域プランニンググループ

**「宝塚市」と聞いて何をイメージされますか？歌劇、温泉、阪急電車、清荒神や中山観音、山の手住宅地、旧小浜宿・・・人それぞれですが、実に多様な顔を持っており、概ねどれも良いイメージのもので、他都市からはうらやましがられるかもしれません。**

そんな宝塚市で、都市計画マスタープランの改定と立地適正化計画の策定をお手伝いしています。この度、計画骨子がまとまり、住民説明会が開催されました。

今回の計画策定では、本格的な人口減少社会の到来に備えるべく、都市の持続性を主なテーマとしています。宝塚市は、多面的な魅力を持ちつつ、市街地の大半は鉄道沿線開発をテコに発展してきた郊外住宅都市です。人口推計上も急減することはないため居住地のスラム化や暮らせない等の極端な問題ではなく、住宅都市としての質や魅力が保たれるかどうかが、住宅都市宝塚の持続性に関わる重要な点であると考えています。

このため、『住宅都市として、＋αの魅力があり、多様なライフスタイルが実現できる都市』を目標に掲げ、これまで培ってきた住環境やブランドを生かしつつ、「交流・活動」や「文化・芸術」、「都市的な暮らし」、「柔軟に働く暮らし」など、魅力的で多様なライフスタイルが実現できる都市をめざす方針にしています。

コロナ禍により「新しい日常、新しい働き方」が提唱され、郊外住宅都市のあり方にも影響が想定されますが、そうした潮流にも合致した方向性であると考えます。今後、この目標・方針に沿って具体的な都市づくりの方針や方策、誘導区域等について検討を進め、計画が固まりましたら詳細をご報告させていただきます。

※この業務は、橋本晋輔、羽田拓也、山道未貴も担当しています。

持続可能な都市づくりに向けた目標と方針

# With コロナ、After コロナの農業経営
## ～今年度関わっているプロジェクトより～

武藤健司：
地域産業イノベーショングループ

**新型コロナウイルスにより各方面に影響が出ていますが、農業経営も例外ではありません。**

今年度に関わる滋賀県での6次化推進や新ビジネス創造支援、さいたま市、東村山市、明日香村での農業ビジョン策定支援においても、「With コロナ、After コロナ」は重要なテーマとして話題にあがります。

例えば、いちご狩りシーズンである昨年3～5月に、社会情勢を鑑みて休業を選択した農園が多くありました。団体旅行を中心に営業する農園、出荷先を限定していた農園ほど影響があり、急な販路開拓が難しく、売り先に困ったというケースが多くみられました。その他にも、飲食店や宿泊施設を主な販路としていた農業者は、需要減少や価格低下などの影響を受けています（畜産や酒米（日本酒）などの高級食材、花きなどでその傾向が多く見られました）。

一方で、「直売所（庭先直売所含む）やネット販売の売上が伸びた」など、プラスの影響もありました。緊急事態宣言での外出自粛が広がるなかで、都心や大型商業施設に出かけていた人が買い物先を切り替えたこと、「巣ごもり需要」などが影響していると考えられます。

滋賀県での農林漁業者を対象にした研修会では、「With コロナ、After コロナ」の視点で、販路分析、オンライン活用（販売だけでなく、農園見学や情報発信）、業務効率の見直し・改善などについて実例とともに学んでいます。共通するキーワードは、「いかに差別化をし、顧客（ファン）との関係性を構築するか」です。社会情勢が大きく変わる中で、次代を見据えた展開が求められています。

※この業務は、原田弘之、遠藤真森も担当しています。

ベジタブルガーデン（東近江市）では、夜のいちご狩り、ホットドリンクや写真撮影サービスなど、幻想的な空間を創り上げています

# 楽しみながら気候変動適応を考える「SHIFT ＋適応カード」ができました

植松陽子：
サスティナビリティマネジメントグループ

**近畿地域では、気候変動による影響への適応を地域で進めていくため、他の地域に先がけ、自治体とともに地域の団体や住民が主体的に取り組むための様々な取組をしてきました。**

「SHIFT＋適応」ロゴマーク

つぶやきカードとアクションカード

その中で、学識者や地域で普及啓発活動を行っている方々などと検討を重ね、市民向けの普及啓発ツールとして、「適応普及啓発ヒント集」や「ロゴマーク」、「SHIFT＋適応カード」を作成しました。

「SHIFT＋適応カード」は、気候変動による影響に対する「つぶやき」と、具体的な生活場面に落とした適応策「アクション」からなるカードです。みんなでカードを作ったり、できたカードでゲームを行うことで、楽しみながら「適応」を知り、自分ごととして捉え、行動につなげてもらうことを目指しています。当社でも、こどもエコクラブ活動や自治体職員研修の場において、「SHIFT＋適応カード」を使ったカードゲームを行い、身近なことから「適応」を考えることができたと好評でした。また、気候変動による影響や適応は地域によって異なることから、本カードをもとにした地域オリジナル版カードの作成にも期待を込めています。実際に、静岡県では本カードを参考に「ふじのくに気候変動適応アクションカード」が作成され、中高大学生向けのワークショップも開催されました。

カードゲームの様子

コロナ禍で対面でのカード遊びを行うことが厳しい状況ではありますが、さらなる地域での啓発に向けて、これからオンライン活用など新たな使い方も模索していく予定です。

※本業務は、畑中、中川、植松、駒が担当しています。

---

ライフデザインを考える啓発冊子

# 『「やりたい」「なりたい」から始めよう ―ライフデザインを知る・考える―』を作成しました

岡崎まり：
地域再生デザイングループ

**今回、私たちは岐阜県の委託を受けて中学生向けと高校生向けのライフデザイン啓発冊子を作成しました。**

近年、家族のかたちや生き方の選択肢は多様化していますが、核家族化の進行や地域コミュニティの低下等により子ども達が身近に接することができる大人が減少しています。そのため、親以外の様々な価値観を持ったロールモデルと出会い、自分がどのような生き方をしていきたいかを考える機会が少なくなっています。また、結婚・出産を経ても働き続ける女性が増えるなど、親世代とは夫婦の役割分担の在り方や働き方等も変容しています。

そのため、働くことと生活を営むことを子どもたちが同時に想い描けるようなライフデザイン教育を行うための冊子づくりを行いました。

高校生向けはテーマごとに統計データを多く掲載し、必要な知識を身に着けながら、理解を深められる内容としました。

一方、中学生向けはライフデザインを思い描く第一歩と捉え、岐阜県で多様な生き方を実践している人にインタビューを実施し、それらを紹介することで、新たなロールモデルを知る機会となるようにしました。そのほか、ただ情報を提供するだけでは子ども達の記憶に定着することは難しいため、職業体験等にあわせて自らインタビュアーとなって取材をするワークシートなども冊子の中に設けることで、参加体験型のライフプラン学習が行える工夫を行っています。

中学生向け冊子

ライフデザイン教育は少子化対策を目的として実施されることが多いですが、受け手側の子ども達が、多様な価値観を認め合いながら様々な生き方があることをイメージしつつ、自らの人生を肯定的に捉えられることがより重要だと思うため、これらの思いを大切にしながら、今後もライフデザイン教育等の業務に関わりたいと思います。

※この業務は、植松陽子、松下藍子、山道未貴も担当しています。

# 「下殿田ガーデン」がプレオープンしました

山崎博央：
建築プランニング・デザイングループ

**京都市南区にある障がい福祉サービス事業所「若杉」の敷地内の広場整備をお手伝いをしています（レターズVOL.203若杉続編）**

若杉の建つ場所は、旧京都市若杉学園の広場だった所で、学園利用者のグラウンドであると共に、さくら児童公園として地域住民の活動や避難の場としての機能を担ってきました。

事業主の（社福）京都ライフサポート協会の樋口理事長は、これまでの経緯も踏まえ、施設利用者と共に地域住民の憩いの場にもなるような広場にしていきたいと望まれており、地域の人にも親しまれる場となるよう、地名をとって「下殿田ガーデン」と名付けました。

オープニングセレモニー

私たちも体を張りました

京都駅近くという立地で、市民や観光客も通りかかる場所なので、見た目もセンス良くしたいところです。ガーデンには、芝生広場やボーダーガーデン、菜園等6つの機能を備え、デザイン・施工を、これまでも一緒に取り組んできたエルソルの寺辻信也さんが担当。「イイものを作ろう！」と費用面でも限界を超えて協力してくれています。

また、木を植える土づくりや草引き等を、利用者の作業プログラムの一環として取り入れ、広場づくりとの係わりも持たせています。

広場には公的な助成もないため、費用の工面をしながら、4年間こつこつと作ってきましたが、この度完成した一部分を地域に開放するためプレオープンしました。秋雨がしとしと降る中でしたが、施設利用者による記念植樹が行われ、芝生広場やボーダーガーデンを地域の方に使って頂けるようになりました。

引き続き未完成部分の整備が続きますが、完成した広場が地域になくてはならない憩いの場になるよう、これからも微力ながら応援していきたいと思います。

# 秋の京都・西山を自転車でめぐる。“ツール・ド・西山！”の開催

小川直史：
地域再生デザイングループ

**ニュータウンでの観光プログラムづくりに取り組んでいます。**

京都市の洛西ニュータウンは、昭和51年に入居が開始され、40年以上地域住民に親しまれています。他方で、入居開始当時の世代の高齢化や、若年層の流出による人口減少や少子化等による地域の活力低下が懸念されるようになってきました。その中で、これからのまちづくりを進めるにあたり、地域住民や事業者、行政等が集まり、どのような取り組みを重点的に行うかを検討し、平成29年3月に「洛西ニュータウンアクションプログラム」をとりまとめ、様々な取組を進めています。

取組のひとつとして、観光プログラムの開発を進めています。洛西地域にある美しい田園風景や由緒ある歴史文化など様々な資源をどのように楽しんでもらえるか、オーバーツーリズムと呼ばれる京都観光の現状の中でどうすれば地域住民の負担も少なく、来訪者にも楽しんでもらうことができるかを地域住民や事業者、行政等と連携しながら検討してきました。昨年度からは、洛西地域だけでなく向日市や長岡京市といった周辺市とも協議を行い、洛西地域が属する西山地域をサイクリングで盛り上げていくことを目指し、「ツール・ド・西山！～三都市連携！自転車で行く秋の紅葉めぐり～」を実施しました。

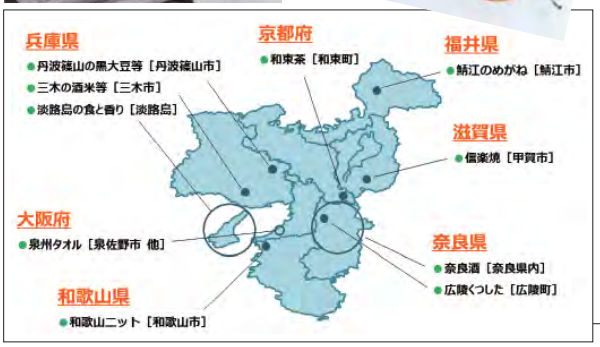
小学校低学年の子どもを連れた親子や、若者グループ、地元の50代の夫婦、70代のサイクリストなど、年齢も属性も様々な72人の方に参加していただき、紅葉が綺麗なスポットを自由に巡ってもらいました。参加した方からは、美しい景色や紅葉を堪能できた、自分の体力に合わせて自由に巡れて良かった、参加者同士すれ違うときに挨拶するのがなんだか楽しかったなど、たくさんの好評の声が聞かれました。地元参加者からは、「こんな名所を知らずに一生を過ごすところだった、イベントに参加して良かった」という言葉もいただきました。

引き続き、来訪者にも、そして地域の方にも楽しんでもらえるようなサイクリング観光の仕組みを検討していきます。みなさまもぜひ一度「京都・西山」に足をお運びください。

洛西・大原野の田園風景を走る参加者

# 2025 年万博に向けて産地を盛り上げよう！

高野隆嗣：
地域産業イノベーショングループ




**「当社の創業は1970年大阪万博の開催が契機である。」私が生まれる以前の「歴史的事実」として、入社以来聞かされてきました。半世紀を経た今日、2025年大阪・関西万博の開催に向けて、私たちも様々な場面で関わらせて戴く機会が増えています。**

関西には、国内外で知名度を有する地域ブランドが少なくありません。一方、知名度は有っても市場開拓やインバウンド客の獲得という面では「今一歩」というものも少なくありません。こうした地域ブランドにとって、大阪・関西万博は絶好のチャンスになると考えます。

近畿経済産業局では、関西における数ある地域ブランドの中から、10カ所のモデル地域を選定、国内外における知名度向上、市場開拓、インバウンド獲得に向けた支援策を開始しました。これらモデル地域のいくつかにおいて、ブランディング・プロデューサーの皆さんと一緒に伴走する機会をいただいています。

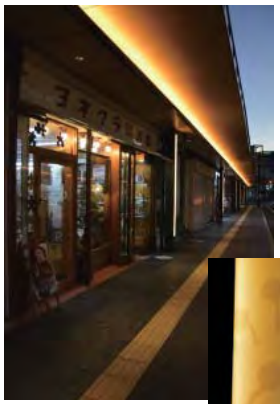
本邦のタオル産業発祥の地「泉州タオル」。分業体制による後晒製法で作られています。拙宅のバスタオルも、抜群の吸水性と優しい肌触りが最高で手放せません。昨年11月には阪急西宮ガーデンズにアンテナショップも開店。普段使いの高質なタオルの戦略構築を始めています。

国産眼鏡フレームの9割を生産する「鯖江のめがね」。軽量で堅く金属アレルギーと無縁なチタン製メガネフレームを世界で初めて実用化したことで知られています。常に世界最高品質のめがね作りに取り組んでおり、元気な地域企業の個社ブランディングや産業ツーリズムと結んだ模索を始めています。この他、酒米として名高い山田錦の生産地である三木市などで新たな挑戦を始めています。

一朝一夕でブランディングが成るはずも有りませんが、いずれも技術や品質は一級品。世界に羽ばたく日を夢見て、私たちも貢献したいと意気込んでいます。

# 田辺駅前商店街のリニューアルが完成しました

三浦健史：
建築プランニング・デザイングループ



夜景

撮影：神谷潔（北山山荘）

光柱図柄：熊楠の粘菌

**和歌山県田辺市は、世界遺産の熊野古道中辺路の玄関口であり、3偉人と言われる武蔵坊弁慶、植芝盛平翁、南方熊楠ゆかりの史跡・名所が多く残っています。南紀エリア有数の繁華街である駅近くの味光路には、夜になると多くのお客さんが集まります。**

田辺市は「世界遺産闘鶏神社を核とした景観整備と駅前空間の刷新」で国土交通省の景観まちづくり刷新モデル地区（全国で10地区）に選定され、アルパックは駅前空間の刷新について、設計等のお手伝いをしました。

景観刷新にあたり、個々のファサード修景ではなく、熊野古道中辺路の玄関口として、連続したアーケードによる物語と統一的景観の創出を考えましたが、アーケードの新設は原則認められていません。庇の出や素材等について協議し、店側の柱から屋根を出した「シェード」として実現に至りました。シェードの形状をはじめ、歩道のあり方、舗装の仕様などは、商店街の皆様と協議を重ね、検討を進めました。全体のデザインは、熊野古道中辺路や闘鶏神社への導入口になることから和の雰囲気が求められ、濃灰色基調のシンプルな形状とし、軒天は紀州桧をイメージした木目調シートとしました。

田辺らしさの表現については、照明デザイナーの長町志穂さんに協力いただき、柱が面で光る「光柱」としました。表面には田辺に関係する図柄9種類が薄くプリントされており、裏から光が当たると浮きあがります。弁慶や熊楠等に関係する図柄を探すのも楽しいです。光柱の色は年間で特別な日は変わり、また床面の照度は時間で変わります。帰ってくる市民や味光路を訪れるお客さんを出迎える特徴的な照明です。商店街の皆様の決断により、全国の商店街でも類例のない照明が実現しました。ぜひ夕方以降に見に訪れていただければと思います。

以前は電線が飛び交っていましたが、シェードの屋根上に各種配線を移して無電柱化を実現し、随分すっきりしました。個店の2階以上は、塗装等でリニューアルを図りました。同時期に駅や交流拠点施設も整備され、以前とは大きく変わりました。コロナが落ち着いたら、ぜひ訪れてみてください。

最後に、ご協力いただきました商店街の皆様にお礼申し上げます。

※本業務は、高坂憲治、山崎博央も担当しました。

事務所だより

## 京　都

### 「四条高倉に移ってから 46 年」

京都事務所　松本明

アルパックは、1967 年に京都大学の東、吉田山の麓で創立し、その後、1970 年には植物園に近いビルに居を移しました。現在の四条高倉、大丸百貨店のお向かいのビルに移転したのは 1974 年で、その後、ずっとこちらで営業を続けています。

伝統ある四条繁栄会では、賑わいを高める取り組みを持続的に進めてこられています。歩行者天国の社会実験「四条ひろば」、銀行や証券会社などの「白壁」をなくすショーウィンドウの演出、そして 2 度にわたる四条通の歩道拡幅整備。第 1 次拡幅は 1988 年で、キャンティレバーによる純白のアーケードやその後に整備された祇園祭の山鉾にちなんだ青緑色のボラードなどが特徴です。また、2015 年に完成した第 2 次拡幅は車道の車線数を減じた大胆なもので、その後の急激なインバウンド増を予見したかのようなゆとりある歩道空間が生まれました。

こうした取り組みの一端をお手伝いできたことも、地域に根差すコンサルタントとして、大変ありがたいことと思っています。

現在、お手伝いしている京都市基本計画策定、京都市各区基本計画策定（11 区）が大詰めを迎えております。ポストコロナも見据え、持続可能な京都のまちづくりに、これからも様々な形でかかわってまいりたいと思います。

## 滋　賀

### 「福をめがけて、ドキリと進む」

滋賀営業所　小川直史

滋賀営業所から歩いて 30 分のところに、勝利と幸福を授ける神様を祀った「太郎坊・阿賀神社（太郎坊宮）」があります。

新たな年を迎えるにあたり、少しで良いので福をくださいという気持ちで出かけますが、福はそう簡単に授けてもらえません。目の前には太郎坊宮へ続く石段が 742 段。汗ばみながら登っていきます。手すりの冷たさが程よくなり、ふと振り返ると眼下には東近江の街並みが広がっています。澄んだ山の空気もあわさり、さわやかな気持ちになって、きちんとお参りしよう、そしてちょっとばかし福をいただきましょうと本殿前まで来ると、高さ数十 m はあろうかという大岩が 2 つ立ち並んでいて、間には約 80cm の隙間があります。聞けばこの隙間が参道になっている、そしてこの岩の間を通り抜けると願い事が叶うとのこと。岩の大きさに気圧されながらも進みだそうとすると、「ただし、悪心ある者は岩に挟まれる。用心してお参りされよ。」と忠告が。なかなかやはり簡単に福にありつけそうにありません。

## 道路協力団体・ミナミ御堂筋の会が社会実験「御堂筋チャレンジ２０２０」を実施しました

絹原一寛
都市・地域プランニンググループ

歩行者中心の道路空間へ再編が進む御堂筋。広がった歩道空間を利活用する道路協力団体に、当社が支援するミナミ御堂筋の会を含む 3 団体が指定されました。

次年度以降の継続的な利活用と、国の「歩行者利便増進道路」（通称：ほこみち）指定をにらんで 12 月の 1 か月間、社会実験を実施しました。

既に歩道が拡げられたモデル整備区間では、若手デザイナーによる滞在空間と、シェアサイクル「HUBchari」のポートを設置。バナー広告やデジタルサイネージによる広告協賛を原資とした展開を検証しました。大阪メトロらと共同でウィズコロナ時代の公共空間をめざし、AI カメラによる密回避を可能とする技術開発や、周辺商店街への誘客を図るデータマネジメントを実践しました。これから本格整備を控えた側道閉鎖区間においては、歩道空間が拡がった状況を可視化、将来形のあり方を地元の皆さんと検証を行いました。

新型コロナウイルス感染拡大と重なり、内容を抑制しながらでしたが、様々なトライアルができました。官民連携で、試しながら将来形を創り上げる、新時代の道づくりを先導する御堂筋に、これからもご注目ください。

※社会実験の詳細はミナミ御堂筋の会のホームページでご覧ください。

側道閉鎖区間の実験

拡幅した道路空間の休憩施設

# 近況 &イベントのお知らせ

## 適塾路地奥サロン報告

適塾路地奥サロン実行委員会

### 28 回　2020 年 11 月 13 日

**領域を超えて～見えないニーズ汲み取りと建築デザインの役割～**

イチバンセン一級建築士事務所　川西康之氏

第 28 回は、川西康之氏をお招きし、建築×デザイン×まちづくりをテーマに、関わられたプロジェクトのエピソードを交え、お話いただきました。川西氏は、鉄道駅リノベーション、鉄道車両、観光クルーザー、高速バスの設計デザインから幼稚園・福祉施設の建築設計等、課題整理＋建築設計＋事業運営＋情報発信をトータルにデザインされています。数々の受賞歴・メディア掲載の中で、例えば観光列車「えちごトキめきリゾート雪月花」（新潟県上越市・糸魚川市・妙高市）はテレビ番組などで目にしたことがあるのではないでしょうか。

また、奈良県川西町のご出身であり、近鉄結崎駅＋公園＋古墳（奈良県川西町　結崎駅 8800 人フューチャーセッション）のプロジェクトでは、ワークショップを重ね、課題整理、ニーズ分析、事業シナリオ分析等から「結崎駅周辺まちづくり基本計画」をまとめられています。例えば、現状の地上駅か、それとも橋上駅かの議論は、町民・利用者ニーズを詳細に分析し、合意形成を図っています。「町民みんなで使い倒せる結崎駅」の実現が楽しみです。

（杉本健太朗）

### 29 回　2020 年 12 月 4 日

**シビックテックが教えてくれるもの ～まちと人とテクノロジー～**

（一社）コードフォージャパン　佐藤拓也氏

第 29 回は、佐藤拓也氏をお招きし、近年盛り上がりを見せる「シビックテック」についてお話をいただきました。

シビックテックはその名の通り、「市民が自ら手を動かし、自分の住む地域を便利にしたり楽しくしたりすること」と一般的に言われています。「テック」という言葉があるので、IT 系の人たちだけのものと思われがちですが、実はそうではありません。シビックテックは、課題を解決する技術力だけでなく、課題そのものを見つけだすことや、ユーザーとして使いやすさにコミットすることなど、エンジニア外の目線や意見を大切にする共創型のコミュニティです。

講演では、シビックテックの多様な活動の紹介や IT 業界のオープンソース文化など多岐にわたる話題を提供していただきました。IT が私たちの生活の隅々にまで入り込むに伴い、まちづくりのプレイヤーも課題解決の方法もどんどん多様化していることを改めて感じました。そして、様々なあり方がある故に、自分はどうありたいのかを考え直す良い機会となりました。

（稲垣和哉）

## 森脇宏の追悼のしおり Memorial　Moriwaki を作成しました

昨年 6 月 17 日に前社長森脇宏が逝去しました。生前のご厚情に対し感謝申し上げます。

社長として在任中であり、本来なら社葬を執り行うところでしたが、新型コロナウィルス感染症の流行により開催を見送ることにしました。その代わりに関係者の寄稿により故人を偲ぶ冊子をまとめ、生前故人と関係のあった方々にお送りさせていただきました。なお、故人が残した住所録を頼りに送付させていただいたため、一部の方には行き届かず礼を欠いたかもしれません。この場を借りてお詫びします。まだ多少、残部がございますので、ご希望の方はご連絡ください。

＜連絡先＞

E-mail：info@arpak.co.jp　もしくは、web のお問合せページ

Letters Arpak
レターズアルパック

〔レターズアルパック〕225号　2021年1月発行（株）地域計画建築研究所　https://www.arpak.co.jp

まちかど

# にぎわいと歴史・文化により紡がれるみち

山崎将也：
都市・地域プランニンググループ

**八王子駅北口には、全国的にも珍しいターミナル駅直結の歩行者専用の幹線道路が整備されています。**

八王子市は、都内で旧東京市の次に市制を施行した、多摩地域最大の都市です。戦国時代に後北条氏が築いた八王子城（城の鎮守として牛頭天王の八人の王子神が祀られている）が地名の由来になったと言われています。江戸時代になって甲州街道の整備が進められる中で、交通の要衝でもあった八王子には街道最大の宿場町（八王子十五宿）が整備され、明治以降も街道を中心に市街地が形成されていきました。

歩行者専用の都市軸ユーロードのにぎわい

戦後の戦災復興事業において八王子駅と甲州街道を結ぶ三本の放射道路が整備され駅前の幹線道路網が形成されました。このうち今回取り上げる西放射道路はユーロードと呼ばれ、延長五百メートル、三放射の中で唯一の歩行者専用道路となっています。

ユーロードは駅前の歩行者専用道路ということもあり、沿道には多くの店舗が連なり、一日二万人以上の人が訪れる市内で最も活気にあふれた空間となっています。、格子状のまちを斜めに貫くように整備された道路であり、三角形の残地はポケットパークとして整備され、通りの表情や人の流れに変化を与え、にぎわいを創出するアクセントとなっています。

江戸時代以降、八王子が絹の街としても栄えていく中で、ユーロードに隣接する中町に花街が形成され、現在でも十数名の芸妓が活動しています。中町花街は、昼間若者などで賑わうユーロードと共存する、夜の大人の空間を形作っています。

ユーロードに面する中町花街の落ち着いた雰囲気

令和二年六月、八王子は「霊気満山　高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」として日本遺産に指定され、八王子駅北口においても絹織物や芸妓、八王子まつりなどが構成文化財として位置付けられました。ユーロードもその歴史・文化を未来にわたって紡いでいくみちとなっています。

にぎわいや歴史・文化もそこで暮らす人々の生活がベースにあってこそ。この地で営む人、子を育てる人、学ぶ人など、当たり前の生活の場を当たり前のものとして育んでいくこともユーロードを紡ぐ大切な糸になります。

どんなみちにも歴史やそこでの営みが刻まれています。外出しにくい時勢ではありますが、たまには見知らぬみちでにぎわいや歴史、人々の営みに思いを馳せながら、ブラブラしてみてはいかがでしょうか。

表紙写真：夜明けの足摺岬灯台（撮影　竹内和巳）

「レターズ アルパック」は、ホームページからもご覧いただけます。
arpak
アルパック（株）地域計画建築研究所　Architects, Regional Planners & Associates, Kyoto
https://www.arpak.co.jp　E-mail:info@arpak.co.jp

本社・
京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町82　TEL(075)221-5132　FAX(075)256-1764
大阪事務所 〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル10F　TEL(06)6205-3600　FAX(06)6205-3601
名古屋事務所 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-27-2 日本生命笹島ビル17F　TEL(052)462-1030　FAX(052)462-1061
東京事務所 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-15-7 ユニゾ内神田1丁目ビル4F　TEL(03)5244-5132　FAX(03)6273-7715
九州事務所 〒810-0802（株）よかネット：福岡市博多区中洲中島町3-8 福岡パールビル8F　TEL(092)283-2121　FAX(092)283-2128
滋賀営業所 〒527-0012 東近江市八日市本町9-14　TEL(0748)36-2065　FAX(0748)36-2168
ホーチミン（ベトナム） 0908.CJ Building.2-4-6 Le Thanh Ton street. District 1 HCMC.Vietnam　TEL+84(028)6255-6732

再エネ100宣言 RE Action
この用紙は「びわ湖の森を元気にする」kikitoペーパーを使用しています。